

## (1) 本校の新聞活用（N I E）の現状

### ○ 本年度4月時点での学校全体の生徒等の実態

今年度は、指定2年次であり、本来ならば、生徒の新聞活用の実態も進んでいなければならないはずである。しかしながら、生徒の新聞活用の実態は前年度と比べて大きく変わってはいない。

新聞購読率は全家庭の6～7割程度であり、情報収集の中心はまだ、テレビがほとんどである。ネットの利用率も年々高くなっているが、利用内容のほとんどは、動画視聴であり、情報収集のために積極的に活用している様子は見られない。

マスメディアを通しての社会全般へのアクセスは、意欲もリテラシーも低いと言わざるを得ない。

### ○ 本年度4月時点での研究対象の学級の生徒の実態

前年度から、N I Eに関わっている学年だけに、全体の中では、新聞を通しての、社会に対する関わりは比較的高い方である。

国語科、社会科、総合的な学習の時間、特別活動の中で、社会（特に地域社会）とかかわることを意識的に行ってきたことが、社会に対する関わりの高さに関係しているものと思われる。

新聞記事を使ったショートスピーチでも、1面からそのまま抜き出した記事を選ぶのではなく、自分の生活や関心にかかわる記事を選ぶことができるようになってきている。

また、行事のまとめや国語科での作家紹介を新聞形式で行ってきたため、そのまとめ方には比較的慣れている。

### ○ 本年度4月時点での先生方の新聞に対する関わり方の実態

残念ながら、教科領域における活用が十分とは言えない状況にある。新聞のみならず、図書資料などの活用も教科内での活用は不活発である。係の啓発不足もあるが、様々な資料を活用して学びを豊かにするのは、国語科や社会科だけのものだ、という意識から抜け出すことができていないようである。

特別活動では、図書資料やネットの活用も行われているが、新聞資料の活用は少ない。

図書館司書が、購読している新聞から、教育関係の記事と地域に関する記事を切り抜き、前者は職員室に、後者は図書館前に掲示している。残念ながら、ほとんど話題にしてもらえない。

多忙な業務の中、準備時間等に新聞を読んでいる先生もほとんど見られず、そうした姿勢が生徒の新聞への関心、社会へのかかわりの姿勢にも関係してくるのではないだろうか。

ただし、多少の温度差はあり、昨年度N I Eの指定を受けて以来、新聞を読むことを課す学級も現れている。

## (2) 実践のねらい（育てたい力）

○ 生徒に伸びてほしいと願うこと、期待できそうなこと

### ① 研究テーマ

「主体的に情報にアクセスし、得た情報を、わかりやすく相手に伝える力をつけるための指導はどうあったらよいか。」

### ② テーマ設定の理由

今年度は、国語科を中心にN I Eに取り組み、上記テーマで研究を進めてきた。

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善がうたわれている。知識を蓄積するだけではなく、主体的に問いをたてる姿勢、情報にアクセスする意欲と技術、得た情報をいかに活用していくか、その方向性と技能が重要視されているものとする。また、知識と技能が、社会生活の中で生かされるべきものだとなれば、他者とののかかわりの姿勢は、あらゆる場面で重視されなければならないだろう。

むしろ、これは、まったく新しい考え方というものではなく、今までの学校教育の中でも大切なものとされてきていたものである。ただ、受検や時々の社会情勢に流されたり、昨今では学校の多忙化によって、その本質を見失いがちになってしまっていたことも否めない。

いわゆる「総合的な学習の時間」「探求的な学習」は上記の「主体的・対話的で深い学び」をめざして設定されてきたものであり、その考え方や方法を各教科に取り入れる事は新しい学習指導要領の実施において、最も重要な点と考える

そこで、本校国語科においても、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、特に探求的な学習に力を入れ、上記テーマを設定した。

### ③ 本校における国語科の考え方

新しい学習指導要領における、国語科の目標は以下のとおりである。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

この目標のうち、(1)に関しては、週に一度の新聞コラムの書き写しによって、言葉を通して「社会」を知る活動を続けている。コラムは単に書き写すだけでなく、そのコラムに対する「疑問」を考え、その疑問の解決法を考えることで、主体的に問題に取り組む姿勢を育てたいと考えている。

また、(2)に関しては、単に国語科の授業だけでなく、学校生活、社会生活全般を通して取り組んでいく必要があり、本校では、今年度、生徒会を中心として、学校外との関係を重視した活動に取り組んでいる。地域ボランティアや中学生議会がそれである。

地域ボランティアでは、計画を立て、ボランティア先の担当者と連絡を取り合うなど、学校外の人とののかかわりが重視される活動となった。また、中学生議会では、全校から集めた町への意見要望をまとめる、議会で発言する、町当局からの回答に意見を述べるなどの臨機応変な言語活動が求められた。

なお、総合的な学習で培った、自ら課題を決めだす力を、教科の中に活かすために、テスト結果の分析と家庭学習の自己設定を一人ひとりに課している。

### ○ N I E実践を通して高めたいと考えたこと（育てたい力）

国語科における探求的な学習の場面では、次のような力を付けたいと考えた。

1. 課題を決めだす力
2. 課題解決の道筋を見通す力
3. 情報を収集・分析する力
4. 課題にあわせて情報を整理する力（まとめる力）
5. 他者に対して情報を発信する力

国語科では表現の学習が少なくないが、単に言語の効果的な使い方の力を身に着けるだけでなく、上記のような力をつけるために、できるだけ探求的な場面を作りたいと考えた。

## （３）研究の概要

### ○ 新聞の提供状況

- ・ 提供された新聞は、図書館で一括管理していた。
- ・ 図書館前に長机を置き、そこに、新聞種ごとに並べた。
- ・ 最新のものが一番上に来るようにして、一か月間は長机上に置いた。
- ・ さらに、3か月間は図書館で保存し、必要に応じて利用に供せるようにしておいた。
- ・ 教育関係の記事、郷土関係の記事は切抜き、掲示し、生徒及び教職員の目に触れやすいようにした。

### ○ 授業研究の概要

昨年度からの国語科のカリキュラムの中では次のような場면을探求的な学習の場面として設定している。

#### 1年生

- ・ 中学生になったことを実感する時（友達へのインタビュー）
- ・ 自分を変えた体験（体験作文）
- ・ 私の好きな作家新聞（情報を集めて新聞形式でまとめる）

#### 2年生

- ・ 言葉調べ（アンケートとその集計から言葉の特質を考える）

#### 3年生

- ・ ディベート
- ・ 社会問題への私の考え（意見文）
- ・ ビブリオバトル（即興での質疑応答）

また、日常的に新聞に触れさせる学習活動として、国語科の週末課題としての、コラムの書き写し、短学活の中での「最近気になったニュース」という題でのショートスピーチを行ってきた。

なお、コラムの書き写しでは、単に本文を書き写すだけでなく、感想、難語句調べ、コラム本文から考えた疑問、その疑問を解決するための手立ても考え記入できるようにしてきた。

また、研究当該学年は、1年生の時から、宿泊行事、作家調べ、職場体験、新入生への学校紹介などを新聞形式でまとめてきており、表現としての新聞という形式には比較的慣れている。

## ○ 本時への展開

### (1) 単元名および単元の概要

単元名：「総合発表会新聞を作ろう。」

教 科：国語科

授業学年：全学年（ただし公開授業は3年生 19名）

### (2) 単元の目標

- ・ 事実と感想など情報と情報との関係について理解を深め、適切に活用できる。
- ・ 自分の考えを明確にし、相手を説得できるように、話を工夫できる。
- ・ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫できる。
- ・ 自分たちの社会の歴史に対して興味を持ち、それを自分たちの生活に活かす方法を考えることができる。

### (3) 単元設定の理由

本校、国語科では探求的な学習を積極的に取り入れているが、今年度は総合発表会が50回目の節目となり、その記念イベント的な活動が期待されている。そこで、自分たちの歴史を知ること、これからの生活に活かしていこうと、総合発表会の歴史を調べてまとめる「総合発表会新聞」を作ることにした。

全校生徒数が約100名であるため、2人をペアとして、1回ずつを割り振り、新聞づくりを進めることにした。ペアにすることで対話的な活動を進めることができると期待しているが、2人では、一方がリードして終わりにになってしまう可能性もあるので、ペアをさらに2組あわせて、お互いにアドバイスし合えるようにすることで、対話的な活動を取り入れる事にした。

また、単に文献を調べるだけでなく、当時の関係者から直接話を聞く、インタビュー活動を取り入れる事で、社会生活における人とのかかわりの中の言語活動ができるのではないかと考えた。

全校で取り組む活動ではあるが、学年による力の差もあるため、1学年は最近の総合発表会を、学年が上がるほど過去について調べるという形にした。また、分量も、1・2年生は1枚で、3年生は2枚でまとめるように差を付けた。

#### (4) 単元展開

|       |                                                                                                    |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1     | 全校制作としての総発新聞をどのように作るか考える。<br>・ <b>新聞を学ぶ</b> (新聞形式による総合発表会の歴史の紹介の良さ)                                |
| 2     | 総合発表会の何を知りたいかを考える (新聞の内容を考える)<br>どんな情報が必要か考える (データと感想) ・ <b>新聞を作る</b>                              |
| 3     | どのように調べるか考える (方法と資料) : 分担 ・ <b>新聞を作る</b>                                                           |
| 4     | 基礎的な情報を調べる 資料 : 生徒会誌、記念誌                                                                           |
| 5     | 基礎的な情報の中から 記事の中心となるものを選ぶ ・ <b>新聞を作る</b>                                                            |
| 6・7   | 資料の中からわかることと、インタビューの必要なことをピックアップする<br>インタビューをする内容を考える (本時)<br>・ <b>新聞を学ぶ</b> (インタビューによって記事がどう変わるか) |
| 8     | 実際のインタビューをもとに記事を書く ・ <b>新聞を作る</b>                                                                  |
| 9     | 新聞の割り付け ・ <b>新聞を作る</b>                                                                             |
| 10・11 | 制作                                                                                                 |

#### (5) 本時案の展開 (概略)

**主眼** 総合発表会新聞のトピックが決まった生徒が、読みたくなるような記事にするために、効果的なインタビュー項目を考えることができるようになる。

#### 展開

|     |                                                                                                                                                           |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 学習活動 (予想される反応)                                                                                                                                            |
| 導入も | 前時に学習した、インタビューの良さを思い出し、本時の「インタビュー項目を考える」という学習課題を確認する。                                                                                                     |
| 展開  | ① 資料 (新聞記事) を読み、インタビューによって記事の印象がどう変わるかを考える。<br>新聞記事Aを読んで、村田製作所について持ったイメージを出す。<br>さらにインタビューに基づいた新聞記事Bを読んで村田製作所について新たに持ったイメージを出す。<br>Bで得たイメージをAで得たイメージと比べる。 |
|     | ② 自分達の作る新聞のトピックから一つを選んで、インタビュー項目を考える (ペアで1枚のシートに記入)                                                                                                       |
|     | ③ 別のペアとインタビュー項目を交換して、アドバイスしあう。(付箋に記入)                                                                                                                     |
|     | 別ペアからのアドバイスを基に、インタビュー項目を作り直す。                                                                                                                             |
| まとめ | 本時で学んだことの確認 (学習カード) と<br>次時の学習内容の確認。                                                                                                                      |

#### (4) 研究のまとめ

研究会で出された意見をもとに

資料（新聞記事の提示）

- ・ どんな資料を使うかがポイントとなる。その記事の性質を見定め、それをどういう順番で使うかということが大切になる。
- ・ 今回は、一つの対象を違った視点と書き方で捕らえた二つの記事を較べるという手法が新鮮で効果的だった。本来補足記事をA、メインの記事をBとして、逆の順番で提示したことで、それぞれの記事の違いがより明確となり、インタビューの有用性が分かるようになっていた。
- ・ 写真資料のインパクトは強い。写真の扱いをもう少し考えてみることで、展開も変わってくるのではないかな。
- ・ 今回、資料提示の場面では、新聞記事本文と電子黒板、読みを効果的に使い、短時間で効果的に資料を扱っていた。資料提示の方法も計画的に行う必要がある。
- ・ 線を引いて読ませたかった。（こだわりを持って読む）

新聞作りに関して

- ・ 記事を作る段階で、資料として使ったインタビュー記事が活用できるのではないかな。記事の教材としての研究が必要。

学習形態（ペア・グループ）言語活動に関して

- ・ グループ学習、ペア形式の学習のため、話し合いが深まっていた。話し合うことで、自分たちが面白いと思ったことに着目できている。
- ・ 言語活動は人とのかかわりの中で高まっていくものであり、ペア学習さらにインタビューという二重の言語活動は言語能力を高める上で有効と思われる。
- ・ 人と直接話をするすることで、堅い質問から、その人の体温のあるものに変わっていく。それを体感させたい。
- ・ 5W1Hについては、インタビューで一番大事なことが「なぜ」と「どのように」だということを教えてほしかった。

授業構造について

- ・ 生徒にどんな力をつけたいかということを明確にしておくことで授業全体がすっきりしてくる。
- ・ 授業のまとめの学習カードは有効である。まとめる内容は「学んだことを80字程度で要約しなさい。」という形が良いのではないかな。

#### (5) 残された課題

- ・ 新聞を作ることだけが目的となってしまう、そこで学んだことをきちんと位置付けていなかった。インタビューで何を学んだかなどをまとめさせておく必要があった。
- ・ N I Eは全教科でチャレンジしてほしい。当事者にならないと関わらないのは残念である。